

講演会型+子育てサロン型(中学校)

学校名等	郡上市立明宝中学校
実施日時	令和4年11月18日(金)
会場	郡上市立明宝中学校
参加人数	1年生親子(保護者10名・生徒14名)
学習課題(分野)	思春期って何?どうするの?~明日の自分がほめてくれる今日を~ (自立心・家族の大切さ)
運営者の願い	思春期について一緒に講話を聞き互いの考えを交流することで、親子が良い関係を保ちながら共に子どもの思春期を乗り越えたい。

学習の内容

<開催までの経緯>

- ・思春期を迎えた子どもと共に講師の話聞き、親子が共に考えを交流したいという家庭教育学級長の強い願いをもとに、講師について市の担当課に相談があった。その相談を受けて、美濃教育事務所の地域カウンセラーに講師の依頼があった。
- ・家庭教育学級長が開催に関する願いを講師に伝え、会の内容について相談した。また、事前に生徒に対して自己肯定感に関わるアンケートを行った。

<当日の流れ>

(1) 講演

- ・思春期とは「自分を知る時期」、「自分探しの時期」
- ・子どもを取り巻く現代の複雑な環境と子どもたちの意識
- ・やがて子どもは一人で生きていく

(2) 親子交流会

- ・親子が4つのグループに分かれ、ローテーションしながらテーマに沿って交流

- *テーマ1:「めっちゃ私を褒めて ~親から子へ~」
- *テーマ2:「めっちゃ私を褒めて ~子から親へ~」
- *テーマ3:「実はうちの親... ~子から親へ~」
- *テーマ4:「あー、しまった、と思っていること、実はやってしまったこと ~子から親へ~」



<テーマ1>

みんな素直で、本当にすごい仲間だよ。

<テーマ3>

そんなこと、ここでは言えない...

<テーマ2>

いつも朝起こしてくれてありがとう。

<テーマ4>

コップを割ったのは私だけけど...。言えていません...

<参加者の感想>

- ・思春期の子どもの特徴が再確認できました。今回の交流会・講話などで、自分が反省する点がたくさんありました。親の意見ばかり押しつけて子どもの思いを大切にできていなかったことに気づきました。これからはもっと子どもの思いに寄り添い、思いを大切に親子の関係をうまく保ち、子どもの思春期を共に過ごしていきたいです。
- ・講演の後、息子が日々の反省、これから気をつけていきたいことを発表してくれ、素直にうろっとするほど嬉しかった。言葉は少ないがよく分かっているのかなと。私も自分を反省し、子どもに寄り添っていきたいです。
- ・講師の先生の話、とってもよかったです。失敗談を聞きながら、「ああ、今の私だ」と共感と同時に安心感、「誰でも同じような気持ちを経験しながら親として成長していける」と感じる事ができました。子どもとの対話もよかったです。



役員による主体的な運営

学級委員長が事前に進め方やテーマについて考えておられ、交流はすべて委員長の進行で行われました。親子交流会では子どもたちに「何を言ってもお母さんたちは大丈夫だよ」と言葉をかけられるなど、和やかな雰囲気の中、会が進められました。



講師との願いの共有

役員と学校の先生が会の内容について相談するとともに、親子で思春期をうまく乗り越えたいという願いを講師の先生に熱く伝えられました。



新しい取組に果敢に挑戦!

親と子どもが一緒に参加するサロン型の取組はこれまで実施されたことがありませんでしたが、親がどんな話を聞いているのかを子どもにも知ってもらい、同じ話を聞いた後で思いを交流したいという強い願いのもと、親子での開催という新しい形を取られました。